

第 8 8 8 回

定例教育委員会会議録

日 時 令和 3 年 8 月 3 1 日 (火) 1 3 : 3 0 ~

場 所 益田市役所 第 2 会議室

益田市教育委員会

第888回 教育委員会定例会

招集年月日 令和3年8月31日（火）13時30分～

招集場所 益田市役所 第2会議室

議事日程

第1 会議録の承認

第2 教育長報告

第3 議題

議第13号 令和4年度使用中学校教科書（歴史）の採択について

報第30号 夏休み！算数・数学パワーアップ教室の開催状況について

報第31号 1人1台端末の使用状況について

報第32号 旧二川小学校敷地法面崩土による個人宅破損被害に係る損害賠償について

第4 その他

(1) 情報提供

- ・特別展「雪舟ゆかりの戦国武将—益田氏・大内氏・毛利氏—」の開催について
- ・美都学校給食共同調理場「ひきみとの幸献立の日」について

(2) その他

出席者

教育委員会

教 育 長	高 市 和 則
教 育 委 員	村 上 三 恵 子
教 育 委 員	中 野 純
教 育 委 員	梅 津 富 美 子
教 育 委 員	大 庭 隆 志

事務局職員

教 育 部 長	野 村 美 夜 子
ひとづくり推進監	大 畑 伸 幸
教 育 総 務 課 長	長 嶺 勝 良
学 校 教 育 課 参 事	松 元 善 生
文 化 財 課 長	山 本 浩 之
人 権 ・ 同 和 教 育 推 進 室 長	岡 崎 勝
美 都 分 室 長	田 中 一 史
匹 見 分 室 長	齋 藤 一 臣
学 校 教 育 課 指 導 主 事	岩 崎 真 人
学 校 教 育 課 指 導 主 事	植 田 幸 司
学 校 教 育 課 指 導 主 事	嘉 儀 瑞 恵
教 育 総 務 課 長 補 佐	齋 藤 勝 義
教 育 総 務 課 主 任 主 事	岩 崎 俊 也

高市教育長 ただいまより第888回益田市教育委員会定例会を開催いたします。
それでは、議事に入らせていただきます。

第1 会議録の承認

高市教育長 会議録の承認につきましては、先ほどご承認いただきました。

第2 教育長報告

高市教育長 次に進みまして、第2の教育長報告でございます。前回の教育委員会からの活動状況でございます。

資料は、議事日程の次のページをご確認ください。前回の定例教育委員会から本日までの主な動き、私の動きを提示しております。まず、7月30日でございますが、秦佐八郎博士顕彰委員会が行われました。

続きまして、8月5日でございます。委員の皆様にもご参加いただきましたが、益田鹿足市教育委員会連合会総会を行いました。午前中は総会を行いまして、午後学校給食に係る衛生管理研修を行ったところでございます。

続きまして、8月11日でございます。こちらは、前回の定例教育委員会でもご報告をさせていただきましたが、予定では8月10日から13日まで行う予定としておりました、夏休み！算数・数学パワーアップ教室でございます。こちらは、大雨の関係で開始が1日ずれまして11日から、また最終日は13日でございますが、こちらにもまた大雨の関係で、松江から来てもらっている学生さんたちが帰れなくなるということもありまして、こちらに実家等がある学生1名を除きまして、残りの学生を午前中で1回終わりにして松江に帰ってもらうという形で、なかなか当初予定をしていた活動よりも大分イレギュラーな形になってしまいましたが、無事一応3日間学生さんが来て、市内の小・中学生と一緒に算数、数学の勉強をしたというところでございます。

続きまして、8月12日でございます。先生方にもご確認をいただきましたが、益田市教育委員会外部評価委員会という形で、我々が行いました内部評価につきまして外部評価をいただいたというところでございます。

続きまして、8月20日でございます。こちらは、県議会の建設環境委員会の方々が益田市にいらっしゃいました。ZEBという極力二酸化炭素を出さないという建物として設計をされている桂平小学校の状況を視察するというので、県議会議員の方々がいらっしゃいました。実際に桂平小学校にも行っていただきまして、学校の状況を見ていただきました。

8月24日でございます。こちらは未来の担い手コンソーシアムの会議

を開催いたしました。市内の関係者が集まりまして、高校のコンソーシアムの活動等についてご議論をいただいたところでございます。

続きまして、8月25日でございます。こちらは、本年度から同一校舎として運営を開始しております、匹見小学校、匹見中学校についてでございます。こちらは4月に同一校舎の運用のセレモニーを、市長をはじめ参加の下実施をしたところでした。その際、市長から、匹見小・中学校の児童・生徒に対しまして、匹見の無垢の板を、いわゆる学級のプレートですね、学級プレートを作ってもらおうということで贈呈をしたところでした。そのプレートに対しまして、地域の方々、また児童・生徒と一緒に、どういうプレートがいいのかという作成をしていただいていたところでした。それが完成されたということで、実際学校の教室のところにクラスプレートをかけるということで、お披露目式を行いました。私もそちらのほうに参加をして、幾つかのクラスプレートですね、実際掲げるということを見せていただきました。非常にそれぞれ子どもたちが創意工夫をして、華やかな感じの学園になったと思っております。ぜひ先生方も、匹見小・中学校を訪問された際には、子どもたち、地域の方々と一緒に作ったプレートをぜひご覧いただければと思います。

続きまして、8月30日でございます。益田中学校に1日訪問をしてまいりました。生徒たちの活動の様子、また学校の教員の活動の様子等を視察してきたところでした。その後に、地域の校長会の方々から要望を受けたところでした。

教育長報告としては以上でございます。この件についてよろしいでしょうか。

教育委員

＝全員了承＝

第3 議題

○報第30号 夏休み！算数・数学パワーアップ教室の開催状況について

高市教育長

続きまして、議事日程第3、議題に移ります。議事第13号につきましては、先ほどご審議いただきましたので、報告事項から続けさせていただきます。報第30号夏休み！算数・数学パワーアップ教室の開催状況について、報告をお願いします。

松元参事

それでは、夏休み！算数・数学パワーアップ教室の開催状況をお伝えします。先ほど教育長から話されましたが、これが今年初めて行ったものです。また後で説明させていただきますけれども、益田市型の中高一貫教育の実現に向けた取組として行われました。この開催に当たっては、山本市長と島根大学の学長さんが直接会って、協議をされた上で実現したものです。

期日は、8月11日から13日までの3日間、当初は4日間の予定でしたが、先ほど教育長の話にありましたように、大雨、台風の影響で1日短

くなって3日間開催となりました。場所は、市民学習センターの和室、そして203号室です。大学生は今年初めてということで、何人の方が出てくださるのかという不安も少しありましたが、募集したところ13名の方から応募いただきました。そして、小学生は19名、そして中学生は14名、合計46名で開催しました。そのときの活動の様子を、3分弱の動画でご覧いただければと思います。

＝動画視聴＝

はい、ありがとうございました。これは、先に見ていただきましたように、子どもたちが実際に夏休みの課題を持ち寄ったりしたこともありましたが、しまね数リンピックみたいに難しい問題にチャレンジしたり、後ほど植田が報告しますけども、各学校から夏休み中に持ち帰ったタブレットを持参してもらって、それを使ったプログラミング学習を行ったりしました。途中大庭委員さんにも激励いただいて、来ていただきありがとうございました。

それから、アンケート結果ですが、大学生のアンケートということで、13名の学生にアンケートを取ったところ、いずれも100%の高評価をいただいて、特に益田市への興味、関心が高まったとか、来年これも同じ企画があったらまた参加したいということで、100%の回答をいただいております。それから、小学校については、これは数々のアンケートに対して、とても思う、そしてやや思うという肯定的なものがほぼ9割を超えておりました。特にうれしかったことですが、一番上の参加する前よりも算数、数学が好きになったということ。そして、上から2番目の、難しい問題でもチャレンジしたい気持ちが強くなったということがありました。実際の子どもたちのアンケートにもありましたが、普段1人だったら難しい問題をやってなかったけど、大学生が横にいてくれたことで、難しい問題にチャレンジできたということもありました。ですから、寄り添う大人であったり、寄り添う友達、仲間であったりがいることで、やっぱり子どもたちの学習意欲というのは高まる、後押ししてもらえるとということが改めて分かりました。

そして、次、中学生のアンケート結果です。中学生は14名参加ですが、最終日、11名の方にアンケートを取っています。小学生と同じように、参加する前よりも算数、数学が好きになった子どもが9割、それから難しい問題でもチャレンジしたい気持ちが強くなったという方が8割ということがありました。そして、中学生の特徴としましては、大学生や大学に対しての憧れが強くなったという中学生が、とても思う、やや思うを合わせて100%という成果を出しております。大学生という者に対して、年齢が上がるにつれてより身近に感じる憧れが強くなったのではないかと考えております。

そして、今後の展開ですけれども、島根大学とこのような取組、連携を深めて、理工系人材の育成を通じた益田市型の中高一貫教育を推進していきたいと考えております。具体的に申しておきますと、ご存じのとおり益田市は医師を含めた理工系の人材が不足しております。一方、島根県は、島根大学と連携を深めて、地元の学生を島大に入れて、島大の学生を地元就職させたいという考えを持っていらっしゃると思います。そして、島根大学は、今後理系の学部を新設するなどの強化をして、理工系人材の育成を充実させたいと考えていらっしゃいます。ということは、島根県と島根大学と益田市の方向性が一致しているということになります。そこで、今回益田市としては、理工系人材の育成ということの中高一貫の軸として捉えて、今後関係機関と協議を進めて、育成に向けて取り組んでいきたいと考えております。このたびの算数・数学パワーアップ教室も、その理工系人材の育成を目指し取り組んだということで、第一段として取り組んでおります。今後、推進状況を皆さんにもお伝えしたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。以上で報告を終わります。

村上委員

はい。松元先生、ご説明ありがとうございました。アンケートの結果からも、大学生も小・中学生共に満足度の高い教室になったというところでは、非常にいい教室が開かれたのではないかと感じました。こうした教室が1年、夏休みごとの取組だけに終わらずに、できればこうした冬休み、春休み、長期のお休みがあるときに、継続して何らかの関わりができれば、継続した関わりができたらいいと感じながら聞かせていただいたところです。

あと、もう一点質問ですけれども、これまで中高一貫教育の議論の中では、具体的にどのような力をつけていくかということについては、まだはっきりしていなかったと理解をしているのですけれども、今回理工系人材の育成というところで、まとめのところでも先ほどおっしゃられましたけれども、今後中高一貫教育の推進に当たって理工系人材を育成していくというところを進めていくということになっていくということの確認でよろしいでしょうか。

松元参事

ありがとうございます。先ほど説明しましたように、この理工系人材というものを、中高一貫教育の手法のひとつとして、教育委員会として取り組んでいくつもりです。

それから、最初におっしゃっていただいた、今回の夏休みにとどまらずということについては、先ほどご指摘と参加者のアンケートも大変好評いただきましたので、これは前向きに検討していきたいと考えております。ありがとうございます。

村上委員

はい、ありがとうございました。

梅津委員

参加された13名の大学生全員がまた参加したいと答えられたというこ

とで、益田市への興味、関心が高まったと答えられて、とてもうれしい思いがいたしました。このたびの参加で、益田出身の学生さんが是非来てほしいと言っておられましたけども、結果的には1名でしたけど、益田出身以外の島大生が益田を知るきっかけとしてなったのでよかったのではないかと思います。今後、益田市にとどまって活躍してくださるという可能性があるのではと期待しています。益田出身の島大生が出られたということで、ちょっと知り合いだったもので話を聞いてみますと、そのお母さんのことですが、インターンとか、小・中学校の勉強を指導することに併せて、企業見学も連れていってもらったことや、主催者側の教育委員会と、それから職員の方といろいろな話をするのができたことがよかったと話しておられました。就職の前にいろんな価値観を持った大人の方との交流はよい刺激になったということで、台風などで短くなってしまったのが残念でしたけども、来年も企画していただければ参加したいと思っていますという意見がございました。大成功だったなと思います。私も村上委員さんと同じように、夏休みだけではなく、長期の休み等を使って、またこういう機会を持っていただけたら、今回参加できなかった方とかも参加できるのではないかと思います。次回の予定などがあればお聞かせいただきたいと思います。

松元参事

ありがとうございます。先ほど村上委員さん、梅津委員さんのように、好意的といいますか、大変激励をいただいて、今それを踏まえて今後どういう展開ができるかというところを、教育委員会内部でも協議をしているところです。学び舎益田というものもございますが、今回このような形で理工系の教科に特化してやるということが、子どもたちにとって非常に力になるのかということ踏まえて、今後の展開を具体的に整理していきたいと思っていますので、そのときにはまたご報告をさせていただきたいと考えております。

梅津委員
中野委員

はい、ありがとうございます。

失礼いたします。台風等の、台風や大雨による天災がある中ではありますが、無事に開催ができたということで、先ほどアンケート等も報告がありましたとおり、実りあるパワーアップ教室になったと拝聴いたしました。

何点かお聞きしたいことがありまして、当初、人数ですね、人数制限ということで、小・中各10名ということがあったのですが、今ご報告を聞いておりましたら、小学生が19名、中学生が14名ということで、非常に募集に対しての要望といいますか、参加人数が多かったのかなと思います。これは延べ人数という形なのか、連日で参加された方の人数なのかというところをお聞きしたいと思います。要は、こういった盛り上がりがある行事について、やはり新型コロナウイルス感染拡大のところも気になるころではありますが、工夫をしながら、参加者を受け入れる枠を増やす

ために、人数であったり、日にちであったりというところを増やしていく必要もあるかと思えます。

もう一つが、島大生のご支援等もあったのですが、今まででしたら退職された教職員の皆さんであったりとか、あるいは現役の教職員の皆さんがサポートをされていたということであったのですが、それに比べて実際どのような子どもたちが勉強の意欲が高まったりとかですね。一概に企画ということではできないかもしれませんが、どういった効果的な部分があったのかというところが知りたいところがありまして、教えていただければと思います。

それから、最後にお聞きしたいのは、要は学習を受けるのは子どもさんたちになると思いますので、ある程度まとめというところで、テストをされているかどうか分からないのですが、どういった伸びがあったとか、そういったところも非常に気になる場所だと私自身思っておりますので、その3点のところをお聞かせいただければと思います。

松元参事

ありがとうございます。今、ご質問いただいた3点についてお答えします。1点目の人数ということですが、端的に言いましたら、今回初めての開催ということで、まだ主催する我々もどういった内容で、どのぐらいの規模でというところが形にするまで試行錯誤の連続でした。しかも、島大の学生さんが本当に来てくれるのかどうかということを含めてやや消極的な人数募集をしておりましたが、島大生が定員の10名を超えて応募があり、高市教育長のほうからも、拒まず、ぜひ全員受け入れろという指示をいただきましたので、13名受けました。参加者数の19名と14名というのはエントリーした子どもたちの数です。

それから、2つ目の島大生の支援と退職された教職員の方の支援との比較についてです。客観的なデータはないのですが、我々教育委員会職員が見たときに、島根大学の学生さんは子どもたちにとってお兄さん、お姉さんのようで、親しみやすく、年齢も近いので、自分が分からない質問や困ったことを聞きやすいというところで、子どもたちが会話をしながら学習している様子が非常に印象的でした。子どもたちのアンケートにもあったのですが、普段だったら難しい問題にチャレンジしなかった、ほったらかしだったけども、横に大学生がいてくれたから難しい問題も挑戦できたという声がありました。身近な存在である、そして実際に学んでいる学生であるということ踏まえて、子どもたちにとっては非常に学習しやすい関係性だったと思います。あとは人数も大学生13名に対して、中学生が14名ということで、ほぼマンツーマンに近い形でアドバイスをしております。そういったことが安心感の効果があったように思います。

それから最後に、3点目ですが、子どもたちの結果の伸びとといいますか、変化を知りたいということについてです。これについては、まとめのテス

トというものしかありませんので、客観的な数値、学力の伸び率というのは今のところありません。ですが、先ほどアンケートにもありましたように、子どもたちの学ぶ意欲、例えば算数、数学ですが、参加する前よりも好きになったとか、難しい問題に前よりもチャレンジしたい気持ちが強くなったとか、それより内面的なもの、算数スキルといいますか、理数系の教科が好きという子どもを育てたいと思ってやりましたけど、そういった一面については効果が見えたように思います。もし今後このような取組をするのであれば、中野委員さんご指摘のようにそういったものも取り入れながら評価して、改善していくことでまたいろいろ私たちが目指すものが手に入るといいますか、役立つものがつかめるのではないかと考えておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

大庭委員

このたびの取組というのは、何か益田市型中高一貫教育ということですが、中高一貫教育というイメージは、例えば都会地でいいますと、私立学校で中学と高校が一つになって、6年の課程を設けて、例えば学ぶというようなイメージがありますが、益田市型の中高一貫教育という形でいいますと、今回の取組が、例えば夏休み！算数・数学パワーアップ教室を開催したということは、教育課程外の発想になるだろうと思います。理工系の人材を育成するということを目指して、最初に益田市型中高一貫教育を進めるに当たりまして、教育課程の中でやっている部分、課程外でやっている部分とかいろいろなことを考えていかなければいけないと思います。中学は義務教育課程の学校であるし、高校はそうではありません。それをミックスして、実施していくことは難しいと思います。ですから、そういったことも考えると、これから具体的に益田市型の中高一貫教育をどういうふうなものであるかということ、どんどん我々自身がイメージできるように、様々な取組をしていくということがすごく重要になってくるのではないかと思いますので、今後、方針に当たりまして、より一層いろんなアイデアを出していく必要があるのではないかと思います。以上です。

野村部長

本日、実は午前中に総務文教委員会調査会が開かれまして、先ほど松元室長が説明しましたことを、総務文教の委員さん方に説明したところです。その中に、今大庭委員さんからご質問があったのと関連するご意見がございました。なかなか仕組みとして見えてこない部分もあるが、今まで議会の中ではいろいろ執行部のほうから、現行の仕組みを変えるものではなく、子どもたちが学びたい意欲であるとか、そういったものを引き出して、選択肢に厚みを持たせるものであるということ、市長のほうからもお答えさせていただいたところです。確かに、まだ仕組みとして確固たるものは見えておりませんし、お話をターゲットもまだしっかり固まっていないところではございますが、もともとの中高一貫教育を市長が自分の施策として打ち出したきっかけが、やはり医師確保というところの難しさという

ところから来ているというところから、やはり理工系人材が益田市にとって必要なことであると。それと、偶然ではありますけれど、島根県ですか、あと島根大学とかが、それぞれの施策として、今理工系の人材を育成する事業をそれぞれ始めておられます。なおかつ、連携しておられます。こういった連携を、益田市も寄り添いながら進めていくということが、結果的には益田市によい人材を還元させる、そういった意義があるのだろうということを、今日議員さん方とお話をしたという流れもあります。

そういう意味で、本当にこの益田市型中高一貫教育で、理系を中心にやっていきたいというお話を今日しましたけれども、やはり幅広く子どもたちの興味、関心を受け止める、そういうものを作っていきたいと考えているところです。これについては、逐次また進捗と内容をご報告したいと思っておりますので、皆様方にはご協力をよろしくお願いしたいと思っております。以上です。

高市教育長
教育委員

それでは、この件についてよろしいでしょうか。
＝全員了承＝

○報第31号 1人1台端末の使用状況について

高市教育長

続きまして、報第31号1人1台端末の使用状況について事務局より説明をお願いします。

植田指導主事

それでは、指導主事の植田より、1人1台端末の使用状況について報告をさせていただきますと思います。

この1人1台端末は、国のGIGAスクール構想に基づく事業により納入されたものです。GIGAスクール構想とは、グローバル・アンド・イノベーション・ゲートウエー・フォー・オールということで、全ての子どもたちにグローバルで革新的な入り口を与えようという国の政策です。これがどういうことかといいますと、これから世の中はSociety 5.0、つまりコンピューター、サイバーの空間と、それから私たちが生きているこの世界とが、高度に融合する社会となっていきます。その中において、お金が家にあるないで端末が与えられる、高度な回線が与えられるということがないように、国が1人1台のタブレット等の端末、そして学校に大容量、高速の通信ネットワークを小・中学校に整備することで、全ての子が公平に端末を用いて学んでいくことができるようにしていこうと、そういう政策になっています。これは、決してコンピューターを使えることを目的にするものではなく、子どもたちが主体的で、対話的で、深い学び、そして主体的に生きていくというようになっていくことを目指すために導入されているものです。

益田市では、単にそれを学校の中だけで使うのではなく、地域、家庭、全

ての学びで使えるようにぜひ導入したいということで、この3月に、益田市が考える1人1台端末のある未来の学習のビジョンを示しまして、このたび導入をさせていただきました。ですので、各学校には、今、積極的な持ち帰りということをお願いしているところです。

では、今、2つの観点、1人1台端末と、大容量、高速度通信ネットワークというお話をしたので、それに基づいて今の学校での状況をご説明させていただけたらと思います。

まず、大容量、高速回線でつながる学びとして、4つの事例を載せております。真砂小学校の事例は、これまで外部、東京から講師さん等をお迎えすると、1名の講師さんで高額なお金がかかっていました。今回、オンラインで学習をすることによって、真砂小一人一人の児童に、一人一人の東京からの講師さんがついていただき、最新のプログラミングの学習を真砂小の学校にしながら受けることができました。

それから、匹見小・中学校の事例では、児童・生徒の人数が少ないのですが、目の前に大きなディスプレイを置くことによって、ほかの学校の生徒とともに対話をする学習ができ、それから講演等も講師さんと対話をしているかのようにしながら学びを深めていく、そういう様子を載せさせていただいています。

それから、高津小学校の事例では、学校をお休みした児童が、体調がよくなったら、端末を使って学習に参加をしている様子を表したものです。それで、4つ目については、益田小学校の動画です。

＝動画視聴＝

今、見ていただいた動画はどういったものかということ、東京の講師さんと大規模校でも実際につながりながら、情報モラルの勉強をしている様子でした。担任の先生が、こちらのほうで聞きたいこととかを児童に説明し、それで手を挙げたり、それからグループで考えたりしたものを、カメラ、それから音声を通して東京につなぐ、そして学びを深めていくというような様子が見られている事例です。

続いて、今度は端末に注目をした学びをご紹介したいと思います。学校と地域の学びが交換している事例が匹見中にありますので、ご紹介させていただきます。教員、生徒、それから社会教育コーディネーター、みんなで東京の専門家とオンラインでつないで情報モラル動画の作成について勉強しました。よく学校の中でやることはあるのですが、ここに社会教育コーディネーターを巻き込んでやったところがこの事例の大きな特徴です。動画作製のシナリオづくり等も、実際にオンラインで手元を写しながらさせていただきました。そして、撮影した動画の保存や、オンラインでの共有方法は、中学校の技術等の時間を用いて勉強をします。そして、動画の見本を、社会コーディネーターと地域、公民館の方と一緒に今度作って、それ

を基に、夏休み、子どもたちは自分のタブレットをそれぞれの家に持って帰って、動画の素材を探しています。どんな動画を作るかという、この匹見という地域にどういうものがあり、自分たちが誇っているのか、そういう地域の魅力を発信しようと、そういうテーマで行っています。これは、またいろいろな会を通して発表されると聞いていますが、このように1人1台の端末を使いながら、地域と学校の学びが少しずつ交換を始めています。

実は、この学び、生徒一人一人には、1TBのクラウドの記録する場所があります。これは全てとっておくことができます。自分の学習の学びが記録できる、そしてこれがまたさらに自分たちでもう一歩社会に出ていったときに、自分たちで今度はこんなことをやってみようとなつながら期待しています。

それから、先ほど紹介しましたが、教育委員会でも積極的に学校から持ち帰った端末を使う機会、この間もプログラミング教育ということで、算数・数学パワーアップ教室で実際に使うことで、そういう経験ができる機会を与えることができました。

こういった取組ができるのも、各学校で先生方が積極的に道具として端末を使っていたいていただいているおかげです。見学等での撮影機能を使って写真を撮る、そしてそれだけではなく、ワード、パワーポイント、発表ノート等を使って、授業でのまとめの学習をし、みんなで共有する。自分のまとめだけでなく、グループの考えを共有するような時間に、1台の端末を使って授業に参加する。益田中学校の事例を載せておりますが、ほかの学校でもグルーピングの授業とかで、対話のきっかけとしてこの端末を使っていると聞いています。

このような各方面での取組が、少しずつ益田市が考えています主体的な学びというのが始まっています。そこに写っているのは、医光寺の写真ですが、小学校で医光寺の学習をしたときに、ちょっと自分で行ってみたいということで、端末を持ち出して、お休みの日に出かけたそうです。その写真を撮って、またその写真を学校の先生に、こんなことを自分で勉強してきたよと伝えることで、また新たな学びが始まる。少しずつですが、学校での学びと地域、家庭での学びのサイクルが回り始めています。益田市教育委員会としては、この学習をぜひ市内にしっかり広げていき、さらに深めていきたいというふうに考えております。以上で1人1台端末の使用についての報告を終わらせていただきたいと思います。

大庭委員

先ほどのパワーポイントの2ページ目ですが、GIGAスクール構想というところがありますが、これらの言葉の先頭の文字を取ってGIGAというのだと思うのですけども。それを具体的にどうにかということで、「Global and Innovation Getway for

A 1 1」とありますけど、これが「G e t w a y」になってしまうので、文字が違うので、スペルが違うので直しておいていただけたらいいと思います。「G a t e w a y」だと思います。言葉として、「G e t w a y」というのではないかと思います。

追加で、その下、3行目、「1人1台端末」と「大容量・構想の通信ネットワーク」の小中学校に整備というのがありますけど、「の」はちょっと助詞としておかしいので、あそこを「を」に変えられたらいいと思います。

あわせて、S T E A M教育というところがありますけども、ここはS T E A M教育の実現とありますが、ここはS T E A M教育を実現に、助詞を「の」から「を」に変えると文章として成り立ちます。以上3か所の訂正をお願いしたいと思います。以上です。

高市教育長

ありがとうございます。ご指摘のとおり修正をさせていただきます。ほかご質問、ご意見等はございますか。

中野委員

はい。1人1台端末の使用状況ということで、先ほどご説明をありがとうございました。各学校で、学校での学びや家庭学習のところで様々な活用をされている実態を拝察することができました。大変ありがとうございました。そこで、1つ質問がございまして、現状の部分として、例えば問題とかテストとかという形で、このタブレットを利用した学習ということが、今、なされているのかどうか。せっかくであれば、ペーパーレスをS D G sの観点からいいますと、実施していかないといけない部分もあるかと思いますが、そのあたりについてはどのような様子なのかということをお聞かせいただければと思います。

植田指導主事

全ての学校ではありませんが、この夏休みにおいても、課題をネットワークからダウンロードし、それに答えを書き込んで、クラウドに提出するというので、実際に学習を進めておられる中学校もあると聞いています。通信環境等、それぞれの学校の状況にもよりますので、それぞれの学校による実態に伴いながら、そういうことを少しずつ始めている学校があると聞いております。

中野委員

ありがとうございました。そういった活用の幅が広がっていくということで、I C Tがあるということと、せっかくこうして充実していますので、益田市独自のテストなどを、このタブレットを利用すると、集計も取りやすい部分もあるかと思いますが、またご検討をされてみてはいかがでしょうか。

高市教育長

ありがとうございます。ほか、ご意見ありますでしょうか。

村上委員

はい。学習の仕組みとして、学校での学びを地域とか家庭とかにつなげながら、行っておられる様子がとてもよく分かりました。タブレットの機能を生かしながら、学習に興味が高まったり、広がっていったりというこ

とができればいいことではないかと感じながら、特に私も中野委員さんとの質問が似ているのですけれど、日常的な家庭学習が、いろいろ課題のある益田市でありますので、そこら辺のところに日常的に生かしていける、そういったことがさらに進んでいくことができるということを感じながら、これは要望でもあるのですけれども、どこの学校でも子どもたちが端末を持って、日常的な課題を家庭で行いながら、またそれを持っていくというようなことが進んでいければと思いましたので、要望として意見を言わせていただきます。

松元参事

ありがとうございます。では、その実際事例を少しだけ紹介させていただきます。日常的にということ、なかなか益田市の家庭学習時間も含めて課題があるということ認識しております。今、先ほど植田が幾つか事例を紹介しましたが、日常的な学習というところでは、例えば小学校でタブレットを持ち帰って、国語の教科書の音読、音読というものを自分で記録して、それを各学校に持ち寄って、友達同士で評価し合うとか、または学校で起こったこと、日常で起こったことを、家に帰って日記をつける、日記や読書感想文みたいなそういった感想文みたいなものをタブレットに打ち込んで、それを学校に持ち寄るという形で、いろんな使われ方が市内でも増えていっています。ですから、それを以前7月にも研修会をやりましたが、いろいろな活用をして情報を共有して、いろんなパターン、活用方法を広げていきたいと考えております。ありがとうございます。

村上委員
梅津委員

ありがとうございます。

1人1台の端末で、主体的な学びへということで、自分でまた詳しく調べに行ったりという、端末を使って先生にお知らせしたりとか、とても積極的で、主体的でとってもいいことだと思います。そして、学校に行きにくい生徒とつながったり、いろいろな方とつながっているということで、それはとても大切なことだと思います。なかなか登校できない方にも端末を使って、関わりがどうか、つながりが持てるということは大切なことだと思いますので、また、それはまたぜひやっていただきたいと思います。今、ご紹介くださった中に幾つか、桂平小でしたか、音楽の練習をしたのを端末で録っていて、どれだけ上手になっているかを見比べて、みんな何か学芸会みたいなことをやっていたけど、すごくやる気を起こさせてもらっている、そんな状況を見ますときに、とても端末が活躍している、いい具合に使っておられるなどと思います。ただ、思うのは、何かの新聞で見たことがあるのですが、端末によって何か、悪影響を受けて成績が下がった方などは今のところいらっしゃらないのでしょうか。

植田指導主事

幾つか授業も実際に見させていただいたのですが、少し友達同士で、やっぱりその端末を使いながら教え合ったりして学んでいる様子もありまし

た。また、これはとある小学校の低学年に端末を導入したときですけど、3年生が2年生に使い方を教える、先ほどの大学生と関わることによって憧れを持ったということと非常に似ているのですが、3年生が2年生に教えることによって、聞きやすい環境だったり、一緒に解決していこうというような、先生方も手だてを取られる中で、今、一生懸命みんなが積極的に取り組んでいると聞いております。

ただ、ご指摘の点も、しっかり教育委員会でも共有させてもらいながら、先生方にそういうことがないようにしっかり見ていただくよう、指導等取っていただきたいと思っております。ありがとうございます。

梅津委員
高市教育長
教育委員

はい、ありがとうございます。

それでは、この件についてよろしいでしょうか。

=全員了承=

○報第32号 旧二川小学校敷地法面崩土による個人宅破損被害に係る損害賠償について

高市教育長

続きまして、報第32号旧二川小学校敷地法面崩土による個人宅破損被害に係る損害賠償について事務局より説明をお願いします。

田中分室長

それでは、失礼いたします。教育部美都分室の田中といたします。私からは、旧二川小学校の敷地のり面崩土によります個人住宅破損被害に係る損害賠償についての報告をさせていただきます。

資料にありますように、発生日時、場所、相手方については、記載のとおりでございます。概要につきましては、旧二川小学校敷地のり面にありました切り株が、6月18日の豪雨によりまして落下し、木原文幸氏宅の屋根を破損いたしました。賠償額につきましては、16万7,000円いうことになっております。事後対応につきましては、令和3年8月10日に示談が成立いたしまして、賠償責任額につきましては、全国市長会市民総合賠償保険によりまして、上記相手方へ支払っているところであります。その二次災害が起こらないように、再発防止に係る対応を行いまして、さらに今後の対策としまして、同敷地内の定期点検を実施することということにしております。

もう一枚ですけれど、現場の写真があります。一番上に見えますのが二川小学校の校舎になりますが、法面の切り株が落ちまして、下の家主のところへ落ちたということでもあります。以上、報告を終わります。

中野委員

失礼いたします。こうして災害が発生したということで、まずは人災がなかったということが、一番不幸中の幸いということもあったかなと思えます。しかしながら、本当に相手方の木原さんに対しては、ひどく破損ということになってしまって、本当に申し訳ないなという気持ちでいっぱい

です。そこで、事後対応のことについてなんですが、現状大雨が降って、どのような状況なのかということは、なかなか把握しきれないこともあるのかとは思いますが。今敷地内の定期点検というところは、文面に記載されていますけども、やはり何が起こるか分からない、危険箇所等もあると思いますので、やはり小・中学校にもそういった箇所がないものなのかどうか、そういったことも今後点検をしながら、改善をしていくということも必要なことなのかと思います。やはり、被害賠償額を見ても、膨大な費用が発生していると思いますので、こういったことがまた起きないような対策をするということが行政としても大事だと思いますので、意見として述べさせていただきます。以上でございます。

長嶺課長

市内全域についてお話をさせていただきます。二川に限らず、市職員で施設をパトロールさせていただきました。また、他自治体ですけども、防球ネットが倒れて、子どもさんが亡くなるという事故もありました。そういうところも踏まえて、美都・匹見に限らず市街地も含め市内全体をいろいろと点検をさせていただきました。危険なところについては、特に、鎌手中学校のフェンスを取り除きました。根元のほうが腐食して、国道側へ倒れると道路を塞いでしまったり、電線に引っかかったり、ライフラインに影響するということもありますので、早急に対応させていただいたということでもあります。今後も、パトロールを重ねながら、対応できるところはしていきたいという考え方でおります。以上です。

高市教育長
教育委員

それでは、この件についてよろしいでしょうか。
＝全員了承＝

高市教育長

それでは、以上をもちまして定例会を終わります。
次回は9月30日の9時30分から定例教育委員会を開催いたします。
よろしく願いいたします。ありがとうございました。

＝終了時間 16時00分＝